



じんけんを「他人ごと」から「自分ごと」へ

OYA OYA 通信

学びのホームグラウンド じんけん楽習

2回目 6/5の報告

「排除 ZERO をめざして ～移民・難民支援の現場から～」 ビスカルド篤子さん

(カトリック大阪大司教区社会活動センターシナピス)

(報告 文責 李(い)ぼんみ)

2019年度じんけん楽習塾第2回目は、移住・難民がテーマでした。講師はカトリック大阪大司教区社会活動センター・シナピスのビスカルド篤子さんです。



カトリック大阪大司教区社会活動センター・シナピスは平和を実現する使命に向けて生きる人を応援し支えるためにつくられました。地上でもっとも小さいと言われている種子、それがシナピス(からし種)だそうです。キリスト教ときくと、堅苦しいというような思い込みが私にありましたが、ビスカルド篤さんはざっくばらんで、情熱のある人でした。

難民に冷たい日本

最初に、日本の外国人労働者、難民政策の変遷と、活動の経緯の話がありました。1975年後半のインドシナ難民

(ベトナム、ラオス、カンボジア)から、昨年の12月に閣議決定された外国人就労方針、最大34万人受け入れまで説明がありました。国際的な世論もあって難民受け入れに消極的な日本も1981年難に難民条約に加入します。その結果在日コリアンも社会保障に入れるようになったことを思い出しました。相変わらず、日本は難民受け入れに否定的です。

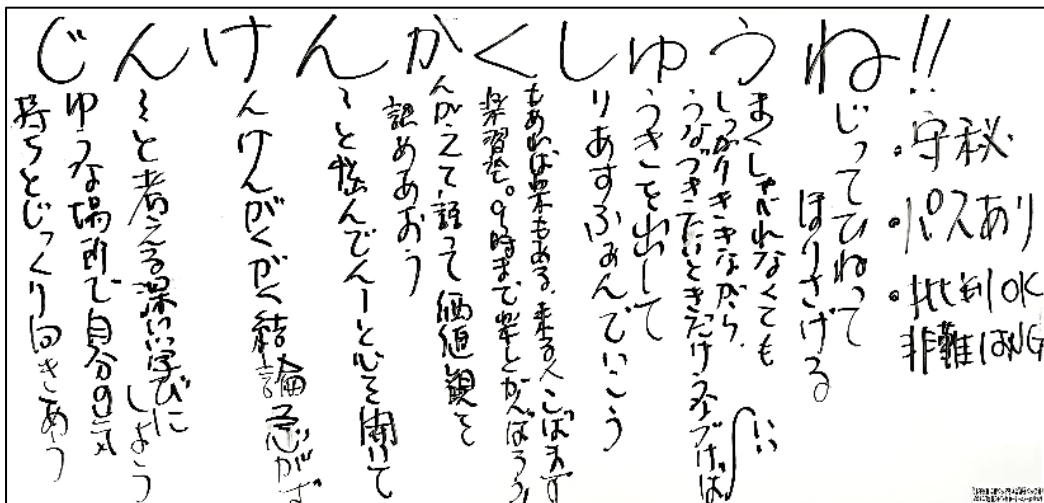
ビスカルド篤さんは難民、移住者のことを関わって約25年だそうです。2000年代に教会がシナピスを立ち上げます。その職員としても外国人の支援に長年かかわってきています。今では年間約20か国140人くらいの相談を受けるそうです。活動の中で、死と瀬戸際の難民の人たちと出会います。難民認定のために、自国で迫害を受けていた証明をしなければなりません。イラク難民からの聞き取りの話には胸がつぶれそうになります。迫害をどれだけうけ、どれだけの拷問を受けてきたか聞き取りをし、拷問のあとを写真でとるなどの書類を作成しないとけません。精神的にとってもつらい作業だと思います。

また、身元引受としてたくさんの外国人の保証人にもなっているそうです。ビスカルド篤さんの背景にあるカトリック教会の存在は大きいそうです。外国人はなかなか日本の

市役所にはいきません。信仰を持つ人たちは教会に助けを求めて駆け込むそうです。

谷間に置かれた人々

日本人男性とフィリピン人女性に生まれたジャパニーズ・フィリピーノ・チルドレン(JFC)と呼ば



れる子やその母親がだまされて来日した事例の紹介もありました。フィリピンバブなどの風俗で強制的に働かされるという、現代の人身売買だと思いました。日本で人身売買なんてあるわけないと思いがちですが、実は日本は人身売買大国であると海外の報告も出ています。2015年岐阜で起きた約80名に不法就労を強いていた事件では、被害にあった人たちの保護にもあたりました。人身売買の被害者の中には男性被害者もいたそうです。

ほかにもたくさんの移住・難民者とのかかわりの話を聞くことができました。日本人の男性が逃げて、一人で子育てをしないといけないうるフィリピンなどのシングルマザー。大阪のミナミで夜中の3時4時にパジャマ姿のどもたちはその子どもです。寒空の2月にガスも電気も停まった部屋で小さな子どもたちだけで、母の帰りを待たねばならない話。みんなが清く貧しく美しいわけではなく、中には犯罪を犯した、外国人刑余者支援の話など、いずれも長いスパンで関わるのが大切です。

在留を求めた裁判はほんとにまけいくさばかりとビスカルドさんは言います。強制送還される外国人を関空で見届けるとき「何もいいことがなかった、でもあなたに会えてよかった」と言われるそうです。だからといって、私がやっている感はなく、宗教者としてやれる限りをしたとというビスカルド篤子さん。

排除ではなく、包摂する社会という言葉に共感します。そして、当事者をど真ん中に置いた支援が大切だと思いました。選ぶのは当事者であるということ忘れてはいけなうると思いました。



連絡

もし参加者の皆さんで宣伝したいチラシ等ありましたら、ご持参ください。毎回ふりかえり用紙をくばります。後でメールファックスでもいいので送ってください。お願いします。通信に反映させたいと思います。(公開だめなものにはオープンにしません)

写真を撮影しますが、OYA OYA通信、八尾市人権協会のホームページなどで使用する場合があります。なるべく個人が特定しにくいものをごと考えていますが、困るという方は事務局に申しつけてください。

みんなのふりかえり

■ 難民支援の日常的な活動が大阪の日本の日常生活の中にあることを知りませんでした。海外でサポートするというイメージだけを勝手に作り上げていました。やっぱり何も見えていないことを知らされた報告でした。

■ 難民の方に対して、民間でこのようなすばらしい活動をしている団体を知れたことはよかったです。難民の方への支援(保護機関など)はもっと必要だと実感しました。

■ 普段聞くことのないお話を聞いてとてもよかったです。支援の手がいかない、行政ではできないところを支援されていてすごいなあと思いました。話もおもしろかったです。

■ 一人一人に寄り添った尊敬できる活動だと感じた。行政がどうにもできない時、本来はあるべきではない時がこんなにもたくさんの人にあるということは一人でも多くの人が考えなければならない問題だと思う。ありがとうございます。

■ 難民や人身取引の話は、外国の話だと思っていました。日本にも、まさかこのような事件が起こっていることを初めて知りました。

また、日本で何も不自由なく暮らしている私にとって、日本にいる外国人は普通の暮らしができていよう、日本は平和だからと思ひ込んでいました。

もっと日本にも難民を受け入れる制度や考えを変えていけなうると思ひました。

■ 大変考えさせられる研修で、また教会に行こうかなと思わされる思ひでした。(災いを怖れなうる)

■ 法務省一入管はホンマにあかん…と再確認しました。10月のイベントに行ってみよう。

■ パワーをもらえる講演会でした。

■ とても貴重な話を有難うございました。知らなかつたこともたくさん知ることができました。知っているのと知っていないのでは、全然違ふと思ひました。色々なことを、自分の活動などにフィードバックしていきなうると思ひました。

■ 排除ではなく包摂がこの社会を安定させるものであると思ひました。